

「見つめよう！北海道」 ～新篠津村農業体験学習～

目 標

- ・社会科で学習する農業の「米作り」における田植えや稲刈りを体験することで、農業に携わる方々の工夫や努力を知り、食べ物の大切さを実感する。
- ・新篠津村「みのり交流農園」の方に教えていただきながら、新篠津小学校の児童と協力して農業体験を行い、集会や給食等を通して交流を深める。

育てたい力

- 米の栽培体験を通して生産者の工夫や苦勞を知るとともに、食べることや命の大切さを実感し、それを自分の生活に生かそうとする資質や能力。
- 農業体験や交流活動において他者と積極的に関わり、自然の豊かさや大切さを感じるとともに、様々な人々と共生（共感）できる資質や態度。

主な学習活動（総合的な学習の時間：12 時間、家庭科：2 時間、特別活動：2 時間）

田植え体験
交流会
(5月22日)

稲刈り体験
交流会
(10月9日)

贈呈式
交流会
(11月22日)

調理実習
親子レク
(11月30日)

- ・新篠津村の無農薬農園「みのり交流農園」で、新篠津村役場の方々の協力の下、新篠津小学校 5 年生児童 22 名と共に田植えを行った。その後、集会と給食を共にした。
- ・今年度は多雨の影響で稲の生育状況に遅れが見られ、当初予定の収穫日を遅らせることとなった。稲を鎌で直接刈り取り、その喜びと苦勞を味わうことができた。コンバインでの脱穀の様子も見て、米作りの過程を知ることができた。
- ・新篠津小学校の児童が本校を訪問し、精米した米を届けてくれた。贈呈セレモニーを行った後、一緒に給食を食べたり、ゲームをしたりして交流した。
- ・いただいた米を使った家庭科調理実習でご飯を炊き、調理実習後の親子レクでは、保護者の方と一緒におにぎりを作り、おいしく食べた。



取組を終えて

子どもの声（感想）

「楽しく田植えができ、友達もできてよかった。用意してくれた人に感謝したい。」（田植え）「ずっと同じ体勢だったから少し疲れた。昔の人はこれをたくさんやっていたと考えると、すごいと思った。」（稲刈り）など、実感を伴う理解や交流の喜びを表した感想が多く寄せられた。

取組の成果

この交流は今年で 13 年目となる。児童や保護者にもこの取組は根付き、この取組への期待の声も大きい。このような期待度や継続性は成果の一つである。

農園の方から田植えや稲刈りの仕方を直接教えていただきながら体験できることは、米作りを理解する大変よい機会である。また農業体験に加え、両校児童の交流も大きな成果である。新篠津小学校児童との 3 回の交流も、お互いの学校の児童にとっての楽しみであり、お互いが特別な存在となっている。

現地でしかできない貴重な体験であること、児童同士の交流があること、そしてそれらが継続していることに大きな成果があると考えられる。

体験先、関係機関

みのり交流農園、新篠津村総務課企画係（新篠津村）